

【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

| | メタデータ項目 | メタデータ記述欄 |
|---|---------|---|
| 1 | ID | |
| 2 | 表題名 | 沖縄の歴史上人物 |
| 3 | 資料名 | 吉屋チルー 比謝橋 |
| 4 | 内容分類 | 郷土・歴史／観光・交通 |
| 5 | 索引語 | 沖縄、歴史、吉屋チルー、琉歌、比謝橋、歌碑 |
| 6 | 説明 | <p>吉屋チルー（1650～1668）は琉球王朝時代の琉歌の女流歌人で、遊女（ジュリ）であった。吉屋とは苗字ではなく遊郭の屋号であり、チルーは「鶴」の方言とされ、吉屋チルーは近世の呼称といわれている。</p> <p>享年 18 で亡くなっている。死因は諸説あるが、首里の領主階級の士族だった仲里の按司と恋仲になったが、黒雲殿とよばれる金持ちに身請けされたことから悲嘆にくれ、絶食し果てたといわれている。</p> <p>吉屋チルーの代表作のひとつに以下の歌がある。故郷を後に遊郭へ向かう中、大きく深い比謝川にかかる橋を渡る不安と恨みを込めて詠んだ歌といわれている。</p> <p>（琉歌）恨む比謝橋や 情け無いぬ人の 我身渡さと思て 掛きてうちえさ （読み）うらむふいじゃばしや なさきねんふいとうぬ わみわたさとうむて い かきていうちやら</p> <p>（意味）恨めしい比謝橋は情けのない人が私を渡そうと思つて掛けておいたのだろうか。</p> <p>この歌碑は比謝橋を挟んで嘉手納町と読谷村の橋の袂の二か所ある。</p> <p>読谷村側の歌碑は 2005 年に建立され、嘉手納町の歌碑より新しい。同所には「比謝缸友竹亭顕彰碑」や「比謝橋碑文」、「戦前の比謝橋復元模型」もある。</p> <p>吉屋チルーの歌碑に向かって右隣りに「比謝缸友竹亭顕彰碑」がある。比謝缸友竹亭とは、廃藩置県後、首里から旧王府所領の牧原・久得・御殿敷あたりに移住してきた旧士族同好者たちの琉歌創作サークルである。（引用：読谷村文化協会 案内石碑より）</p> <p>彼らの功績を称えて活動場所であったこの地に顕彰碑が建立された。吉屋チルーの歌碑と比謝缸友竹亭顕彰碑に向かって右手（比謝川側）には「比謝橋碑文」がある。比謝橋は、吉屋チルーが橋を渡った頃は、木造の橋で、1716～1717 年に木橋から石橋に改築された。比謝橋碑文はその際に建立されたようである。読谷村指定文化財（有形文化財）として 2012 年 5 月 23 日に指定されている。国道沿いには「戦前の比謝橋復元模型」が展示されている。</p> <p>嘉手納町側の歌碑は、国道 58 号線と嘉手納グスク跡（旧嘉手納中央公民館）に挟まれた場所にあり、旧比謝橋の模型碑の下部に歌が刻まれている。同所の付近には「字嘉手納のンブガー」「天川の井戸」のふたつの井戸（拝所）がある。どちらの井戸も、本来は旧嘉手納中央公民館の駐車場に位置していたが、</p> |

| | | |
|----|---------|--|
| | | 戦後、現在の場所に移設された。 |
| 7 | 形式 | 静止画 (jpg) |
| 8 | 氏名 | 撮影者：***** |
| 9 | 時代・年 | 2021/12/25 |
| 10 | 地域・場所 | 沖縄県中頭郡読谷村比謝缸 |
| 11 | 利用条件 | 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) |
| 12 | 関連資料 | |
| 13 | 権利者 | 岐阜女子大学 |
| 14 | 協力者 | なし |
| 15 | 登録日 | 2021/12/26 |
| 16 | 登録者 | 玉城裕子 |
| 17 | ファクトデータ | circd0914-0070. jpg |
| 18 | サムネイル |  |
| 19 | 公開の可否 | 公開可 |
| 20 | *特色 | <p>【沖縄方言】</p> <p>沖縄方言とは、沖縄諸島（沖縄本島とその周辺離島）で話される複数の言語である。沖縄方言は「しまくとぅば」とよばれ、組踊（歌舞劇）や琉球舞踊など沖縄の伝統文化の基層となっており、琉歌もその一つである。</p> <p>かつては琉球諸島全域で広く話されていたが、太平洋戦争以前より日本本土との同化政策の結果として話者が減少し、さらに戦後「標準語励行運動」が実施されたことで、「しまくとぅば」の衰退が加速した。</p> <p>ユネスコ（国連教育科学文化機関）が平成 21 年 2 月に発表した“Atlas of the World’s Languages in Danger”（第 3 版）には、世界で約 2,500 に上る言語が消滅の危機にあるとして掲載されており、日本国内では 8 言語・方言が消滅の危機にあるとされており、「しまくとぅば」も該当する。</p> <p>*文化庁、「消滅の危機にある言語・方言」, https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/,（閲覧日 2022/01/02）</p> <p>【琉歌】</p> <p>琉歌とは、沖縄諸島及び奄美群島・八重山諸島などで伝承される歌をさす。詠むための歌であるが謳うための歌でもある。その起源は古くから沖縄諸島に伝わる叙事的な古謡の「オモロ」、「ウムイ」、「キューナ」などに由来しているといわれている。</p> <p>琉歌は、日本の和歌の影響と中国から 14 世紀末に伝えられたとされる三線</p> |

| | | |
|----|----------|--|
| | | <p>の伴奏によって、15～16世紀頃にかけて成立したと推測されている。17世紀に入ると叙情短詩型の歌謡が主流となり、組踊などの琉球文化が定着した。琉歌は短歌形式と長歌形式があり、「吉屋チルーの歌碑」に刻まれているのは短歌形式である。</p> <p>琉歌の短歌形式の基本は、「八・八・八・六」の三十音の形式で歌われ、「サンパチロク」ともいわれている。「八八、八六」で前半と後半に分けて歌う。長歌形式の場合は、大きく分けると「長歌」「つらね」「木遣り」「口説」の四つがある。</p> <p>「長歌」は、「八八八八」と連続し、最後の句のみ「六」で締める。</p> <p>「つらね」は、歌の作り方は長歌と一緒に、長歌よりも長い。</p> <p>「木遣り」は、「八八八八」と続くが、八音の間に囃子が入る。</p> <p>「口説」は、「七五」で構成され、和歌のような印象が強い。中世日本の芸能である「口説き」が伝来したものといわれている。</p> |
| 21 | *活用支援 | |
| 22 | *利用分野 | 教育、生涯学習、地域学習 |
| 23 | *改善結果 | |
| 24 | *処理プロセス | |
| 25 | 機関外リンク情報 | |
| 26 | 目標 | |
| 27 | 紹介 | |